

2017年1月23日

大規模酪農牧場の新設計画について

株式会社ノベルズ（十勝管内上士幌町、延與雄一郎代表取締役社長）を中核企業とする畜産・加工食品販売のノベルズグループは、十勝管内幕別町の駒畠地区における大規模酪農牧場の新設を計画しています。

乳用牛 4,300 頭を飼養 バイオガスプラントを併設

新たに設立したグループ会社の株式会社幕別デーリィファーム（十勝管内上士幌町、延與雄一郎代表取締役社長）が、2017年春から2019年までの3カ年で、約26haの用地造成ならびに約4,300頭の乳用牛を飼養できる牧場施設を段階的に建設し、2017年内に一部の操業を開始する計画です。

また、畜産系バイオマスを原料とする発電出力800kWで国内最大級のバイオガスプラントを併設し、発電のみならず、消化液と呼ばれる良質な液状の有機肥料も生産します。投資額は約73億円を見込んでいます。

2 酪農牧場体制、生乳出荷で道内最多を目指します

株式会社幕別デーリィファームの新牧場は、ノベルズグループの2カ所目となる酪農牧場です。計画では、同牧場がフル操業に入る2020年の生乳出荷は、4万7,000tで、生産者（法人）別の2015年度実績に照らすと、道内最多となります。

なお、2020年の生乳出荷は、本酪農牧場と株式会社ノベルズデーリィファームの運営する既存の酪農牧場の2カ所を合わせると、計8万5,000tの計画です。

表1：2019年末の飼養頭数規模と2020年（1—12月）の生乳出荷量の計画

株式会社幕別デーリィファーム			株式会社ノベルズデーリィファーム		
飼養頭数	（うち搾乳牛）	生乳出荷	飼養頭数	（うち搾乳牛）	生乳出荷
4,300 頭	(3,500 頭)	4 万 7,000 t	3,600 頭	(3,000 頭)	3 万 8,000 t

「循環型地域農業経済モデル」の確立を目指します

本酪農牧場の運営においては、地域の畑作農家に対して、消化液を安価で提供すると同時に、乳用牛の飼料に好適なデントコーンの栽培を委託する「耕畜連携」を積極的に推進し、畑作農家と共に互いに収益性の向上を図るパートナーシップの構築を目指します。

ノベルズグループは、幕別町、地域の方々をはじめ、農業関連の団体ならびに行政機関のご理解とご支援をいただきながら、こうした「耕畜連携」を軸に、雇用創出や定住人口の増加など地域の活性化につながる、従来にない新しい「循環型地域農業経済モデル」の確立を目指していく考えです。

1. ノベルズグループの事業概要

ノベルズグループは、株式会社ノベルズを中核企業に、本酪農牧場を運営する株式会社幕別デーリィ

2017 年 1 月 23 日

ファームを含めて主要 10 社によるグループ経営を展開しています。独自ブランドの肥育牛「十勝ハーブ牛」をはじめ、全国肥育農家向け子牛（素牛）および生乳を生産する乳肉一貫複合経営の生産システムを有し、現在操業中の 7 牧場において、交雑種（F1）、黒毛和種、ホルスタイン種の計約 2 万頭を飼養しています。乳肉一貫複合経営としては道内最大級の事業規模となっています。

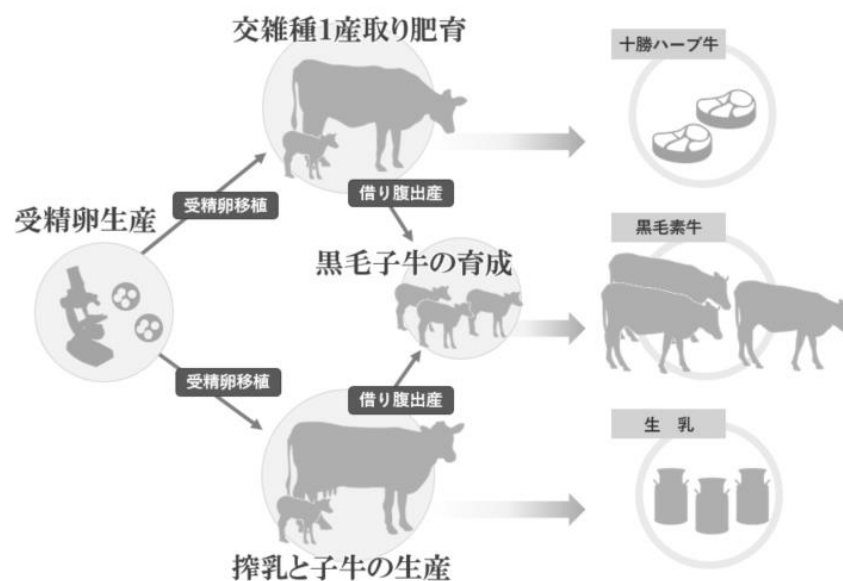


図 1：肉牛事業と酪農事業の生産システム

肥育牛および子牛（素牛）を生産する「肉牛事業」、生乳生産の「酪農事業」、十勝ハーブ牛の加工食品を製造販売する「食品事業」の 3 事業を展開しているグループ主要 8 社の総売上高は、2016 年 12 月期で約 140 億円（予想）を見込んでいます。

2. 経緯

本酪農牧場の新設に至る経緯は次のとおりです。

① 肉牛事業

2006 年、株式会社ノベルズが「交雑種 1 産取り肥育」と呼ぶ肥育手法の事業化を目的に設立されました。この肥育手法は、ホルスタイン種と黒毛和種の掛け合わせである交雑種のうち、特に雌牛を対象とします。受精卵移植により黒毛和種の子牛を生ませて、この子牛をグループの育成牧場で育てて素牛を生産すると同時に、母牛をトータル 32 カ月以上の長期にわたって飼養し、食味に優れた肥育牛「十勝ハーブ牛」を生産するものです。受精卵移植などの「繁殖」、子牛の「育成」、「肥育」といった

2017 年 1 月 23 日

従来の畜産業界において“分業化”されていた生産ノウハウを、グループ内で“内製化”することで、国内で初めて、この手法の事業化に成功。肉牛事業の生産システムを確立しました。

② 酪農事業

その後、グループとして初めて、2011 年に農業生産法人、株式会社ノベルズデーリーファーム（十勝管内清水町、延與雄一郎代表取締役社長）を設立し、酪農分野に参入しました。生乳を生産すると同時に、黒毛和種の子牛の安定供給を図るのが、特色です。肉牛事業で培った生産システムを生かして、設立以来、規模拡大を推し進め、2015 年度の生乳出荷量は 1 万 3,000 トン。2017 年 1 月現在、ホルスタイン種の乳用牛約 2,000 頭を飼養しており、当面は 3,000 頭を目指しています。また、2015 年には、有機の液状肥料（消化液）の生産と発電を行うバイオガスプラントを運営する株式会社御影バイオエナジー（十勝管内清水町、延與雄一郎代表取締役社長）を設立。2017 年春の稼働予定です。

③ 本酪農牧場の新設計画

近年、全国的にみると、酪農家や肉牛農家の離農に歯止めがかからない一方で、生乳および子牛の一定の需要が見込まれていることから、2016 年に入って新設計画の準備を本格化。現在、牧場用地は取得済みであり、また、新設にあたっての各種申請等の準備を進めています。

3. 計画概要

本酪農牧場の新設計画の概要は次のとおりです。

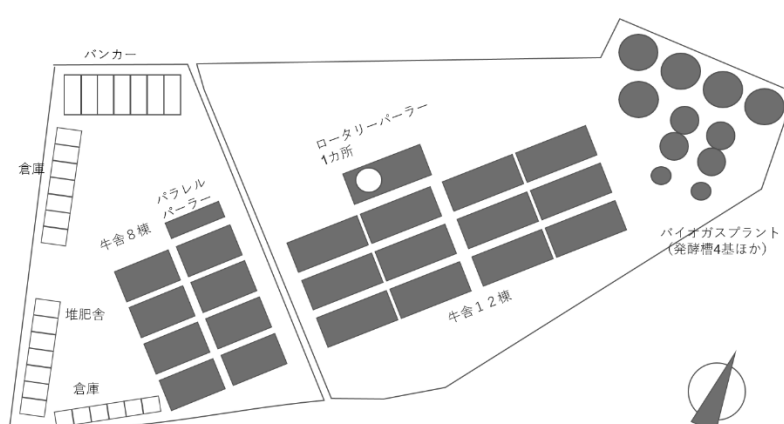
表 2：新設計画の概要

項目	内容
事業主体	株式会社幕別デーリーファーム ※農業生産法人 ※「ノベルズデーリーファーム」は、表記が「デーリー」ですが、新会社は「デーリィ」となります。
代表取締役社長	延與雄一郎代表取締役社長
会社所在地	北海道道河東郡上士幌町上士幌東 3 線 259 番地 ※株式会社ノベルズに同じ。下記牧場設置場所への変更を検討中です。
事業内容	酪農、バイオマスを活用した事業
牧場設置場所	中川郡幕別町字弘和 106 番地他
用地面積	約 26 ha
工事期間	2017 年から 2019 年までの 3 カ年
主な建物・設備	・牛舎 20 棟（うち乾乳舎 4 棟）、堆肥舎 1 棟 ・ロータリーパーラー 1 カ所（80 ポイント）、パラレルパーラー 1 カ所

2017 年 1 月 23 日

	(20 頭ダブル) ・ バイオガスプラント（発電：2 系統 800 kW、消化液：約 280 t / 日）
乳用牛頭数	約 4,300 頭（2019 年末）
設備投資総額	約 73 億円（うちバイオガスプラン関連が約 20 億円）
従業員数	100 人（2019 年末）
操業	2017 年内に操業を開始し、2019 年末まで段階的に操業規模を拡大

図 2：本酪農牧場における主な建物・設備の配置構造図



- (ア) 工事は 3 カ年で建物設備を段階的に整備するものですが、2017 年内に一部の操業を始めます。
- (イ) 本酪農牧場の特徴は、ひとつには、バイオガスプラントを敷地内に併設することで、運営において、畑作農家をはじめとする地域との連携による「循環型地域農業経済モデル」の確立を目指すこと。また、もうひとつには、生乳のみならず、乳用牛から取り上げる子牛（主に黒毛和種）も主生産物とみなすノベルズグループ独自の生産スタイルを採用することです。
- (ウ) 生産物の出荷先は、子牛がグループ内の育成牧場、生乳は農協となります。
- (エ) バイオガスプラントの発電能力は、ノベルズグループが建設中の御影バイオガス発電所を上回り、国内最大級となります。
- (オ) 2019 年末までに従業員 100 人の体制を整備します。人材は、ノベルズグループ各社からの異動、ならびに新卒・経験者の新規採用によって充足します。
- (カ) 乳用牛は、ノベルズグループ内における“自社生産”で確保するほか、オーストラリア産の輸入などによって充当します。

4. 地域とのパートナーシップ

ノベルズグループは、地域と多様な形で連携する「地域共生」のプロジェクトを推進しており、本酪農牧場の運営においては、「耕畜連携」をはじめとする取り組みを通じて「循環型地域農業経済モデル」の確立を目指す

2017 年 1 月 23 日

します。

① 「地域共生」

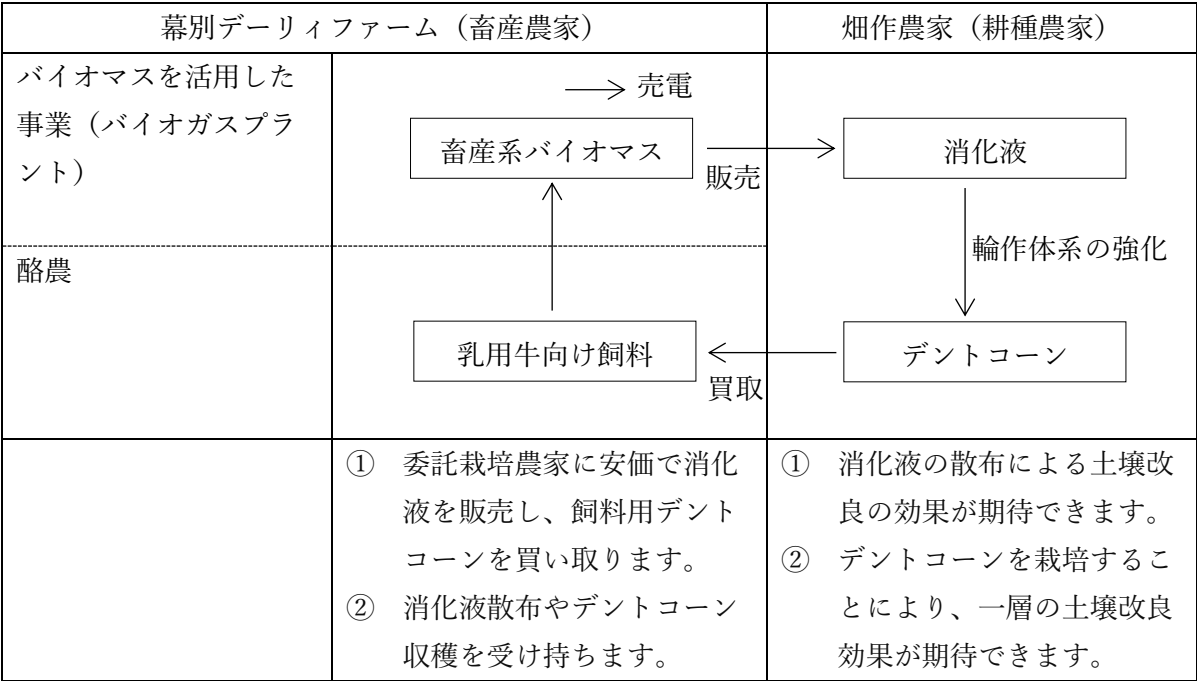
ノベルズグループはグループを挙げて、「肉牛」「酪農」「食品」の3事業において、地域とのパートナーシップにより共栄を図る「地域共生」のプロジェクトに取り組んでいます。特に、十勝管内清水町においては、株式会社ノベルズデリーファームの酪農牧場と株式会社御影バイオエナジーのバイオガスプラントを中心に、今後、循環型農業に関して消化液の効果やデントコーンの栽培に関する調査研究を本格化させます。また、ノベルズグループでは、当面は作付面積で約 2,000 ha 相当のデントコーンを確保する方針でデントコーンの委託栽培農家を募っています。なお、2016 年には約 500 ha 相当のデントコーンを確保しました。

② 「循環型地域農業経済モデル」

株式会社幕別デリーファームの事業展開においては、畑作農家をはじめとする地域との連携により、経済活性化を目指す「循環型地域農業経済モデル」の確立を目指します。

(ア)良質な有機肥料である消化液を畑作農家に提供すると同時に、飼料用のデントコーンを委託栽培いただき、ノベルズグループが買い取る「耕畜連携」の仕組みを整備します（下図参照）。3 月上旬をめどに地域で説明会を順次実施します。

図 3：耕畜連携の仕組み



2017 年 1 月 23 日

(イ)新たな雇用を生み出すほか、従業員向け社宅（寮）なども整備し、地域活性化に向けてコミュニティ活動などに積極的に参画します。

以上

本プレスリリースに関するお問い合わせは、ノベルズグループ広報担当

株式会社ノベルズ ブランディング推進部 村上 (080-1890-6079)まで

〒080-1408 北海道河東郡上士幌町上士幌東3線 259 番地

TEL 01564-2-3360 FAX 01564-2-4672 URL <http://nobels.co.jp/>